

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	
-------	--

分 析 項 目			
分析方法／機器	／	スペクトル干渉の補正又は低減方法	
前 処 理 日			
分 析 日			

【分析結果】

標 準 液			標準物質の カウント数	内標準物質の カウント数	内 標 準 物 質 及 び 濃 度	
標 準 液 1						
標 準 液 2						
標 準 液 3						
標 準 液 4						
標 準 液 5						
標 準 液 6						
標 準 液 7						
標 準 液 8						
標 準 液 9						
上 記 の 面 積 値 等 と 濃 度 の 相 関 か ら 得 ら れ た 数 式			X:		Y:	
相 関 係 数 (R)			(相関式は一次式以外でも可)			
決 定 係 数 (R ²)						

試 料		前処理試料 分取量(mL)	前処理定容量 (mL)	分析時の 希釈倍率	換算係数	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果を記入) mg/L
試 料 ブ ラ ン ク						
試 料 1 回 目						
試 料 2 回 目						
試 料 3 回 目						

【報告値】 (有効数字2桁表示) 平均値の3桁目を四捨五入

	mg/L
--	------

入力ミスがないことを 確認しました (チェックを入れる)	担当者	確認者

(印鑑またはサイン)

(記入例)

(様式 1)

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	〇〇〇〇株式会社大阪試験センター
-------	------------------

分 析 項 目	ひ素		
分析方法／機器	JIS K 0102 61.4 ／ 〇〇社製 ICP質量分析装置	スペクトル干渉の補正又は低減方法	コリジョン・リアクションセル
前 処 理 日	H27.11.11		
分 析 日	H27.11.12	濃度(単位)又は重量(単位)を記入する。	吸光度、ピーク%、面積、発光強度、強度比、イオンカウント数の比等該当す

ひ素の分析を、JIS K 0102. 61.4を用いて分析した場合のみ、スペクトル干渉を補正する手法又は低減する手法を記入する。

【分析結果】

標 準 液	濃度(μg/L)	イオンカウント数の比	標準物質のカウント数	内標準物質のカウント数
標準液 1	0	0.0584	351	602000
標準液 2	1	1.92	11654	607000
標準液 3	5	10.3	61491	597000
標準液 4	10	22.6	137488	606030
標準液 5	15	29.5	191455	
標準液 6				
標準液 7				
標準液 8				
標準液 9				

内 標 準 物 質 及 び 濃 度	In 20.0 μg/L
-------------------	--------------

濃度(単位)又は重量(単位)を記入する。

吸光度、ピーク%、面積、発光強度、強度比、イオンカウント数の比等該当するものを記入する。(オートアナライザーを用いた場合は、ピーク%を記入する。)

内標準法を採用するときは内標準物質名、濃度を記入する。

検量線の作成に用いた標準液を全て記入する。

X、Yの内容を明確に記載する。

上記の面積値等と濃度の相関から得られた数式	$Y = 2.0325X + 0.2736$	X: 濃度(μg/L)	Y: イオンカウント数の比
-----------------------	------------------------	-------------	---------------

計算過程が記入しきれない場合は別紙に記入して提出しても良い。

相 関 係 数 (R)	0.9955	(相関式は一次式以外でも可)
決 定 係 数 (R^2)	0.9910	

換算係数があれば記入する。

個々のデータを算出する時にblank値を差し引く。

試 料	イオンカウント数の比	前処理試料分取量(mL)	前処理定容量(mL)	分析時の希釈倍率	換算係数	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果) mg/L
試料blank	0.502413	50	100	2	-	$(0.5024126 - 0.2736) \times (1/2.0325) \times (1/1000) \times (100/50) \times 2 = 0.000450$
試料 1 回目	7.871362	50	100	2	-	$(7.871362 - 0.2736) \times (1/2.0325) \times (1/1000) \times (100/50) \times 2 - 0.000450 = 0.01450$
試料 2 回目	7.760824	50	100	2	-	$(7.760824 - 0.2736) \times (1/2.0325) \times (1/1000) \times (100/50) \times 2 - 0.000450 = 0.01474$
試料 3 回目	7.980591	50	100	2	-	$(7.980591 - 0.2736) \times (1/2.0325) \times (1/1000) \times (100/50) \times 2 - 0.000450 = 0.01517$

【報告値】 (有効数字2桁表示) 平均値の3桁目を四捨五入

0.015	mg/L
-------	------

☒ 入力ミスがないことを確認しました (チェックを入れる)	担当者	確認者
	○	×

(印鑑またはサイン)

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	
-------	--

分 析 項 目	
分析方法／機器	／
前 処 理 日	
分 析 日	

【分析結果】

標 準 液	硝酸性窒素又は硝酸イオン		亜硝酸性窒素又は亜硝酸イオン	
標 準 液 1				
標 準 液 2				
標 準 液 3				
標 準 液 4				
標 準 液 5				
標 準 液 6				
標 準 液 7				
標 準 液 8				
標 準 液 9				
上記の面積値と重量等の相関から得られた数式				
相 関 係 数 (R)				
決 定 係 数 (R ²)				

X: Y:

(相関式は一次式以外でも可)

試 料	硝 酸 性 窒 素			
		分析時の希釈倍率	換算係数	定量結果の算出方法（最終定量結果までの計算式と計算結果を記入） mg/L
試 料 ブ ラ ン ク				
試 料 1 回 目				
試 料 2 回 目				
試 料 3 回 目				
試 料	亜 硝 酸 性 窒 素			
		分析時の希釈倍率	換算係数	定量結果の算出方法（最終定量結果までの計算式と計算結果を記入） mg/L
試 料 ブ ラ ン ク				
試 料 1 回 目				
試 料 2 回 目				
試 料 3 回 目				

【報告値】 (有効数字2桁表示)

並行測定 of 硝酸性窒素の平均値と亜硝酸性窒素の平均値の合計値の3桁目を四捨五入

硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素		mg/L
-------------------	----------------------	------

☐ 入力ミスがないことを
確認しました
(チェックを入れる)

担当者	確認者

(印鑑またはサイン)

(記入例)

(様式 2)

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	〇〇〇〇株式会社大阪試験センター
-------	------------------

分 析 項 目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
分析方法／機器	JIS K 0102 43.1.2及び43.2.5 / 〇〇社製 イオンクロマトグラフ
前 処 理 日	H27.11.11
分 析 日	H27.11.12

濃度(単位)又は重量(単位)を記入する。

ピーク面積又は高さを記入する。

【分析結果】

標 準 液	硝酸性窒素又は硝酸イオン		亜硝酸性窒素又は亜硝酸イオン	
	濃度(mg/L)	面積値	濃度(mg/L)	面積値
標準液 1	0	0	0	0
標準液 2	2	345100	2	361106
標準液 3	4	712100	4	690000
標準液 4	10	1684000	10	1825000
標準液 5	20	3542000	20	3652000
標準液 6				
標準液 7				
標準液 8				
標準液 9				
上記の面積値と重量等の相関から得られた数式	$Y=175420X+0$		$Y=182254X+0$	
相 関 係 数 (R)	0.9996		0.9999	
決 定 係 数 (R ²)	0.9992		0.9998	

検量線の作成に用いた標準液を全て記入する。

X、Yの内容を明確に記載する。

X: 濃度(mg/L)

Y: 面積

(相関式は一次式以外でも可)

試 料	硝 酸 性 窒 素			
	面積値	分析時の希釈倍率	換算係数	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果を記入) mg/L
試料 blanks	0	1	0.2259	$0.0/175420 \times 1 \times 0.2259 = 0.000000$
試料 1 回目	400000	1	0.2259	$400000/175420 \times 1 \times 0.2259 - 0.000000 = 0.515106$
試料 2 回目	395000	1	0.2259	$395000/175420 \times 1 \times 0.2259 - 0.000000 = 0.508667$
試料 3 回目	390000	1	0.2259	$390000/175420 \times 1 \times 0.2259 - 0.000000 = 0.502228$
試 料	亜 硝 酸 性 窒 素			
	面積値	分析時の希釈倍率	換算係数	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果を記入) mg/L
試料 blanks	0	1	0.3045	$0.0/182254 \times 1 \times 0.3045 = 0.000000$
試料 1 回目	400000	1	0.3045	$400000/182254 \times 1 \times 0.3045 - 0.000000 = 0.668298$
試料 2 回目	385000	1	0.3045	$385000/182254 \times 1 \times 0.3045 - 0.000000 = 0.643237$
試料 3 回目	395000	1	0.3045	$395000/182254 \times 1 \times 0.3045 - 0.000000 = 0.659944$

個々のデータを算出する時にブランク値を差し引く。

【報告値】 (有効数字2桁表示)

並行測定 of 硝酸性窒素の平均値と亜硝酸性窒素の平均値の合計値の3桁目を四捨五入

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	1.2	mg/L
---------------	-----	------

☒ 入力ミスがないことを確認しました
(チェックを入れる)

担当者

〇
〇

確認者

×
×

(印鑑またはサイン)

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	
-------	--

分 析 項 目	
分析方法／機器	／
前 処 理 日	
分 析 日	

【分析結果】

標 準 液	ト リ ク ロ ロ エ チ レ ン			テ ト ラ ク ロ ロ エ チ レ ン			内標準物質及び濃度	
		面積値	面積値/内標面積値		面積値	面積値/内標面積値	面積値	
標 準 液 1								
標 準 液 2								
標 準 液 3								
標 準 液 4								
標 準 液 5								
標 準 液 6								
標 準 液 7								
標 準 液 8								
標 準 液 9								
上記の面積値と重量等の相関から得られた数式							X:	Y:
相関係数(R)							(相関式は一次式以外でも可)	
決定係数(R ²)								

試 料	ト リ ク ロ ロ エ チ レ ン					
	面積値	内標面積値	面積値/内標面積値	試料量(mL)	希釈倍率	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果を記入) mg/L
試 料 ブランク						
試 料 1 回 目						
試 料 2 回 目						
試 料 3 回 目						

試 料	テ ト ラ ク ロ ロ エ チ レ ン					
	面積値	内標面積値	面積値/内標面積値	試料量(mL)	希釈倍率	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果を記入) mg/L
試 料 ブランク						
試 料 1 回 目						
試 料 2 回 目						
試 料 3 回 目						

【報告値】 (有効数字2桁表示) 平均値の3桁目を四捨五入

トリクロロエチレン		mg/L
テトラクロロエチレン		mg/L

☐ 入力ミスがないことを 確認しました (チェックを入れる)	担当者	確認者

(印鑑またはサイン)

(記入例)

(様式 3)

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	〇〇〇株式会社大阪試験センター
-------	-----------------

分 析 項 目	トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン
分析方法/機器	JIS K 0125 5.2 / 〇〇社製ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析装置
前 処 理 日	H27.11.11
分 析 日	H27.11.11~12

濃度(単位)又は重量(単位)を記入する。

使用した内標準物質及び濃度(単位)を記入。

【分析結果】

標 準 液	トリクロロエチレン			テトラクロロエチレン			内標準物質及び濃度
	重量(ng)	面積値	面積値/内標面積値	重量(ng)	面積値	面積値/内標面積値	フルオロベンゼン 10 µg/L 面積値
標準液 1	0	0	0	0	0	0	110000
標準液 2	10	4885	0.033531019	10	8720	0.059854756	145686
標準液 3	50	25655	0.222138522	50	45798	0.396550381	115491
標準液 4	100	43852	0.436994888	100	83204	0.829146279	100349
標準液 5	500	285494	2.533333333	500	486021	4.312711300	112695
標準液 6							
標準液 7							
標準液 8							
標準液 9							
上記の面積値と重量等の相関から得られた数式	Y=0.005106X - 0.02878			Y=0.008666X - 0.02427			X: 重量(ng) Y: 面積値比 (相関式は一次式以外でも)
相関係数(R)	0.9985			0.9994			
決定係数(R ²)	0.9970			0.9988			

検量線の作成に用いた標準液を全て記入する。

X、Yの内容を明確に記載する。

試 料	トリクロロエチレン					定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果を記入) mg/L
	面積値	内標面積値	面積値/内標面積値	試料量(mL)	希釈倍率	
試料ブランク	0	120000	0	10	1	$(0+0.02878) \times (1/0.005106) \times (1/10) \times (1/1000) = 0.0005637$
試料 1 回目	212455	115686	1.836479781	10	2	$2 \times ((1.836479781+0.02878) \times (1/0.005106) \times (1/10) \times (1/1000)) - 0.0005637 = 0.07250$
試料 2 回目	205195	115491	1.776718532	10	2	$2 \times ((1.776718532+0.02878) \times (1/0.005106) \times (1/10) \times (1/1000)) - 0.0005637 = 0.07016$
試料 3 回目	181803	100349	1.811707142	10	2	$2 \times ((1.811707142+0.02878) \times (1/0.005106) \times (1/10) \times (1/1000)) - 0.0005637 = 0.07153$

個々のデータを算出する時にブランク値を差し引く。

試 料	テトラクロロエチレン					定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計算結果を記入) mg/L
	面積値	内標面積値	面積値/内標面積値	試料量(mL)	希釈倍率	
試料ブランク	0	120000	0	10	1	$(0+0.02427) \times (1/0.008666) \times (1/10) \times (1/1000) = 0.0002801$
試料 1 回目	594111	115686	5.135547949	10	2	$2 \times ((5.135547949+0.02427) \times (1/0.008666) \times (1/10) \times (1/1000)) - 0.0002801 = 0.1188$
試料 2 回目	591802	115491	5.124226130	10	2	$2 \times ((5.124226130+0.02427) \times (1/0.008666) \times (1/10) \times (1/1000)) - 0.0002801 = 0.1185$
試料 3 回目	537002	100349	5.351343810	10	2	$2 \times ((5.351343810+0.02427) \times (1/0.008666) \times (1/10) \times (1/1000)) - 0.0002801 = 0.1238$

【報告値】 (有効数字2桁表示) 平均値の3桁目を四捨五入

トリクロロエチレン	0.071	mg/L
テトラクロロエチレン	0.12	mg/L

☒ 入力ミスがないことを確認しました (チェックを入れる)	担当者	確認者
	○	×

(印鑑またはサイン)

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	
分 析 項 目	
分 析 方 法	
分 析 日	

【 測 定 条 件 】

5mmol/L の 過 マン ガン 酸 カリ ウム の フ ァ ク タ ー	
---------------------------------------	--

試 料	試料分取量(mL)	銀の種類	銀の添加量 硝酸銀溶液の場合はmL, 硝酸銀(粉末)又は硫酸銀 (粉末)の場合はg	5mmol/Lの過マンガン酸 カリウムの滴定量(mL)	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計 算結果を記入) mg/L
試 料 プ ラ ン ク		硝酸銀溶液(200g/L)			
		硝酸銀溶液(500g/L)			
		硝酸銀(粉末)			
		硫酸銀(粉末)			
試 料 1 回 目		硝酸銀溶液(200g/L)			
		硝酸銀溶液(500g/L)			
		硝酸銀(粉末)			
		硫酸銀(粉末)			
試 料 2 回 目		硝酸銀溶液(200g/L)			
		硝酸銀溶液(500g/L)			
		硝酸銀(粉末)			
		硫酸銀(粉末)			
試 料 3 回 目		硝酸銀溶液(200g/L)			
		硝酸銀溶液(500g/L)			
		硝酸銀(粉末)			
		硫酸銀(粉末)			

【報告値】	(有効数字2桁表示) 平均値の3桁目を四捨五入
	mg/L

☐ 入力ミスがないことを 確認しました (チェックを入れる)	担当者	確認者

(印鑑またはサイン)

(記入例)

(様式 4)

分 析 結 果 報 告 書

機 関 名	〇〇〇〇株式会社大阪試験センター
-------	------------------

分 析 項 目	化学的酸素要求量(COD)
分 析 方 法	JIS K 0102 17 100°Cにおける過マンガン酸カリウムによる酸素消費量(COD(Mn))
分 析 日	H27.11.12

【測定条件】

5mmol/L の 過 マン ガ ン 酸 カ リ ウ ム の フ ァ ク タ ー	1.001
--	-------

添加した銀化合物の種類ごとに添加量を記入。
溶液と粉末では単位が違うので注意。

試 料	試料分取量(mL)	銀の種類	銀の添加量 硝酸銀溶液の場合はmL, 硝酸銀(粉末)又は硫酸銀 (粉末)の場合はg	5mmol/Lの過マンガン酸 カリウムの滴定量(mL)	定量結果の算出方法 (最終定量結果までの計算式と計 算結果を記入) mg/L
試 料 プ ラ ン ク	100	硝酸銀溶液(200g/L)	5	0.154	最終定量結果までの計算式と定量結果を記入。
		硝酸銀溶液(500g/L)			
		硝酸銀(粉末)			
		硫酸銀(粉末)			
試 料 1 回 目	50	硝酸銀溶液(200g/L)	5	4.894	$(4.894 - 0.154) \times 1.001 \times 1000 / 50 \times 0.2 = 18.979$
		硝酸銀溶液(500g/L)			
		硝酸銀(粉末)			
		硫酸銀(粉末)			
試 料 2 回 目	50	硝酸銀溶液(200g/L)	5	5.012	$(5.012 - 0.154) \times 1.001 \times 1000 / 50 \times 0.2 = 19.451$
		硝酸銀溶液(500g/L)			
		硝酸銀(粉末)			
		硫酸銀(粉末)			
試 料 3 回 目	50	硝酸銀溶液(200g/L)	5	5.100	$(5.100 - 0.154) \times 1.001 \times 1000 / 50 \times 0.2 = 19.804$
		硝酸銀溶液(500g/L)			
		硝酸銀(粉末)			
		硫酸銀(粉末)			

【報告値】 (有効数字2桁表示) 平均値の3桁目を四捨五入

19	mg/L
----	------

☒	入力ミスがないことを 確認しました (チェックを入れる)	担当者	確認者
		○ ○	× ×

(印鑑またはサイン)